

## 今日の説教のポイント <ルカによる福音書 1章 39～56 節>

### ①マリアとエリサベトに共通している点は何？

文章全体を支配しているある雰囲気を感じずにはおれません。それは、全ての出来事に神様の導きがあるはず、と信じている者たちの雰囲気です。それはエリサベトの言葉、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、何と幸いでしょう」(45)に一番現れています。このことを伝えたかったルカも同じ思いの中にいた人なのだと思います。「私は神を信じています。私に告げられたことは、その通りになります」(使徒 27:25)というパウロの言葉を紹介していますから！

### ②聖霊に導かれての神の導きの確信、これは私たちも持てるもの！

エリサベトは、マリアの挨拶を受けた時に胎内の子が踊り、「**聖霊に満たされて**」(41)歓喜の声を上げました。聖霊に満たされるなんて羨ましい限りだ、だから歓喜の声を上げられたのだ、と思いますか？ そうではないと思います。不思議な聖霊が与えられたから喜びに満たされたと考えるべきではありません。神様の導きが全ての出来事にあることを信じて歩める歩みは私たちにも与えられた幸いなのです。難破して皆が恐れ慄いている中で先に引用した言葉を語ったパウロのように歩もうと、私たちもすでに歩み出しているではありませんか！ 聖霊はそのような私たちに、もうすでに注がれているのです。

### ③神の恵みの導きを考えて歩むようにさせてくれたものは何？

マリア、エリサベト、パウロ、ルカ、そして私たちが神様に対してこのような思いを抱けるようになったのはなぜでしょうか？ マリアが語る、「身分の低い、この主のはしためにも **目を留めてくださったからです**」(48)という言葉にその理由が示されていると思います。私たちが、打ちのめされた中で、目標を喪失した中で、自分の存在に無意味さを覚えた中で、聖書の神様に会い、そのような自分をなお愛し、生きることを赦し、共に生きようと呼びかけて下さる神様の存在を知った時、不思議なことに、私たちはこの神様の恵みの導きをどんな時にも覚えて歩めるようになるのではないのでしょうか！

マリアにしては飛躍し過ぎた内容のように思える 51 節以下も、そのような神様を思いながら読む時、大事な内容だと思えて来ます。